

平成16年度戦略的研究開発プラン採択案件一覧

番号	所属	テーマ名	研究開発の概要	共同研究先 ()内は県機関
1	工業技術センター	環境調和型農業用マルチフィルムの開発	廃棄物処理が不要な農業用マルチフィルムの実用化を目指し、改質デンブンを混練反応させ安価な新規生分解性樹脂を製造・加工する技術を開発する。また、野菜等の生育促進や品質向上に資する透過光の波長制御機能を開発し、当フィルムに付与する。 現行の生分解性樹脂450円/kgに対し、300円/kgが目標 (16～18年度)	[共同研究先] ヤマト(株)、(有)P.D.I.、(果樹試験場)
2	工業技術センター	余剰汚泥発生を抑えたコンパクトな排水処理システムの開発	企業にとってより環境に対する配慮が求められている中、産業廃水のCODを除去し余剰汚泥の発生を抑制する、コンパクトで導入が容易な排水処理システムを菌体固定化技術の開発等により実用化を図る。 COD値60ppm以下を目標(COD:水中の有機物を酸化するのに消費される酸素量) SS値50ppm以下を目標(SS:粘土や微生物など水に混ざっている溶性物質の量) (16～18年度)	[共同研究先] 中紀精機(株)、(株)ウメタ、熊本大学
3	畜産試験場	梅副産物を用いた高品質牛肉生産技術の確立	現在、未利用で処分されている梅酢に含まれる抗酸化物質(クエン酸やポリフェノール等)を肥育牛飼料として再利用・給与する技術を確認し、本県特産品である熊野牛の肉質向上及び生産コストの削減を図るとともに、新素材である牛用ポリフェノールサプリメントを開発する。 これにより、未利用梅酢の20～30%(約1.6t/年)の処理を目指す。 (16～18年度)	[共同研究先] チョーヤ梅酒(株)、(工業技術センター)
4	農業試験場	ブランド漬物開発のための原料素材に関する研究	皮が薄く、肉質が良いので漬物適性は高いが、す入りが多い「和歌山ダイコン」について、優良系統の選抜育成を行い商品化率を高めるとともに、減農薬栽培法を確認し、新たなブランド漬物を開発する。また、サラダ感覚漬物やフルーツ漬物に適した素材(ウリ類、カキ)を選定し、新製品を開発する。 「和歌山ダイコン」の商品化率を現行50%から90%に上げることを目指す。 (16～18年度)	[共同研究先] 和歌山地区漬物協同組合、 近畿大学生物理工学部、 (果樹試験場、かき・もも研究所)
5	果樹試験場	省力型牛ふん固形化堆肥実用化技術の開発	急傾斜地で劣悪な土壌条件である本県のウンシュウミカン産地において、牛ふんを瓦状に固形化した堆肥の大量生産技術を開発し、当該堆肥の普及を図り、土壌の改善、農作業の軽労化及びエコロジー農業を確立する。 傾斜度15%以上の低地カウンシュウミカン園は県下に約5千haあり、その5%(250ha)を当初の導入目標とする。 (16～18年度)	[共同研究先] 畜産農家(吉備町)、 (工業技術センター、畜産試験場)
6	工業技術センター	<ゆめ酵母>を用いたわかやまブランド清酒の開発	清酒の需用低迷が続く中、「和歌山」をイメージする「うめの花」「黒潮の海水」「熊野古道の土壌」等から本県独自酵母<和歌山ゆめ酵母>を分離、育種し、他製品とは差別化された新たな清酒等を開発する。 また、清酒の市場拡大を図るため、希釈によらない低アルコール酒の製造法を確認する。 (16～18年度)	[共同研究先] 和歌山県酒造組合連合会、 大阪市立大学、 (独)産業技術総合研究所
7	農業試験場	エンドウ残さのハモグリバエ在来天敵利用技術	害虫の天敵(寄生蜂、本県在来種)を寄生させたエンドウ残さを活用し、野菜栽培ハウスに発生する害虫の防除技術等を開発することにより、減農薬栽培法を確認するとともに、コストの削減や農作業の軽労化を図る。 一般的に生物農薬としては、輸入種や県外種の天敵が用いられているが、エンドウの特産地であることなどをいかして、在来種を活用する事例は本県独自のもの。 (16～18年度)	[共同研究先] JAみなべいなみ、 宮崎大学
8	増養殖研究所	ヒロメの産品化促進事業	漁業者自らが容易にヒロメの種苗を生産できよう配偶体の室内培養技術を開発する他、藻食性魚類の食害を防除する技術や高水温・貧栄養の海域でも生育できる品種を開発する。これにより、ヒロメの産品化を進めるとともに、紀南地域全体にヒロメ養殖の普及を図る。 (16～18年度)	[共同研究先] 湊浦漁業協同組合、 串本漁業協同組合、 東京海洋大学
9	環境衛生研究センター	和歌山県内のキノコ類の分布及びその有用利用についての研究	本県山地には多種のキノコ類が植生しているが、基本となるデータが少なく、中には有用な資源が未利用のままとなっている。そこで、県下のキノコ類の種類、分布、発生状況等について調査を行い、新たな地場産品となりうる食用キノコやウィルス抑制等の薬理効果を有するキノコを選別し、その栽培化に取り組む。 (16～18年度)	[共同研究先] (林業試験場、自然博物館)